

教 科	国 語	科 目	論理国語	単位数	3
学 年	3 年	類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		新編 論理国語（東京書籍）			
副教材（出版社）		新編 論理国語学習課題ノート・小説三選付属版（東京書籍）			
授業の概要		1 講義やグループ活動を通して、論理的な文章や実用的な文章の読み方を学ぶ。 2 論点を整理して読み、自分の考えを深めて論述したり討論したりする。			
授業の目標		実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的・批判的に考える力、創造的に考える力を伸ばす。			
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）	学 習 目 標		
	1 学 期	1 時代をひらく ・最初のペンギン ・豊かさと生物多様性 ・考える楽しみ② 2 新しい視点から ・カフェの開店準備 ・言葉の扉③ 3 科学と人間 ・ロボットが隣人になるとき ・言葉の扉④	・タイトルに象徴させる筆者の考えを手がかりにして自分の生き方について考える。 ・論の展開に注意して読み、生物多様性の重要性と課題について理解を深める。 ・現代における真の価値の探究について理解する。 ・日々の何気ない光景から広がっていく筆者の思考を手がかりにして、自分の日常を見つめ直す。 ・紛らわしい漢字について理解する。 ・哲学的な思考に沿って書かれた評論を読み、人間の意志や自由について理解を深める。 ・的確な表現の仕方について理解する。		
	2 学 期	4 豊かな認識 ・科学的「発見」とは ・図表の読み取り方 5 知のゆくえ ・もう一つの知性 6 明日をみつめて ・ホンモノのおカネの作り方 ・やさしい日本語	・本文中の二つの課題を迫体験して読み、科学的視点の持ち方とその意義を理解する。 ・図表の読み方を理解し、情報を適切に読み取れるようにする。 ・科学的思考とは異なる思考の在り方を理解し、現代社会を生きるうえで必要な態度について考える。 ・二つの例の対比に注意して論旨をたどり、貨幣の持つ不思議さについて理解を深める。 ・資料を読んで「やさしい日本語」について理解し、実用的な文章の分かりやすさについて考える。		
	3 学 期	・未来のありか ・考える楽しみ③	・小見出しを参考にして各部分の内容と関係を読み取り、未来とは何かについて考える。 ・困難な時代における読書の役割について考える。		
観 点 別 評 価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしているか。		論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしているか。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養っているか。
備 考	各学期の定期考査までの学習のまとめりに、3つの観点を ABC の3段階で評価し、100点法を用いて評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教 科		国 語	科 目	国語表現	単位数	2
学 年		3 年	類 型	地域ビジネス科		
教科書（出版社）		国語表現（大修館書店）				
副教材（出版社）		基礎から始める国語の表現力トレーニングノート（大修館書店）				
授 業 の 概 要		1 話すこと・聞くこと、書くことの活動を通じて、豊かな言語感覚を身に付けさせる。 2 表現のための語彙を身に付けるために、小テストや語句テストを行う。				
授 業 の 目 標		国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	1 自己 PR と面接 ・将来の自分を考えよう ・志望理由を書こう ・自己推薦書や学修計画書を書く ・履歴書の書き方 ・表現への扉④自己を見つめる 2 メディアを駆使する ・ネットを活用した情報収集 ・メディアと情報		・将来の生き方について考えるとともに、情報収集の方法や情報のまとめ方を理解する。 ・相手を意識してわかりやすく説得力のある形で自分の思いを表現する。 ・それぞれの文章で求められる内容を正確に理解し、具体的に表現する。 ・文章で求められる内容を正確に理解し、具体的に表現する。 ・夢や将来についての文章を読んで、表現活動を豊かにする。 ・インターネットを活用し、信頼できる情報を取捨選択する力を身に付ける。 ・さまざまなメディアの特徴を理解させ、批判的に情報を吟味する力を養う。		
	2 学 期	1 自己 PR と面接 ・面接にチャレンジ 2 小論文・レポート入門 ・小論文とは何か ・反論を想定して書く ・文章を読み取って書く ・統計資料を読み取って書く ・表現への扉③小論文を書くために		・自己理解を深めさせ、面接という場面に即した表現力と対応力を身に付ける。 ・小論文と作文の違いを明確に理解させ、小論文の基本的な書き方を身に付ける。 ・自分の意見と対立する立場を容認する小論文の書き方を理解させ、説得力の強い文章を書く力を身に付ける。 ・他者の意見を正確に把握したうえで、それに対する意見を述べる。 ・グラフによって示されたデータを正確に把握したうえで、それに対する意見を述べる。 ・小論文についての文章を読んで、表現活動を豊かにする。 ・言葉の定義に対する意識を高め、語彙を豊かにする。		
	3 学 期	1 エッセイを書こう		・読み手を意識し、表現を工夫しながらエッセイを書く。		
観 点 別 評 価	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体的に学習に取り組もうとする態度	
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めようとしているか。		論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしているか。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ、自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養っているか。	
備 考	各学期の定期考査までの学習のまとめごとに、3つの観点をABCの3段階で評価し、100点法を用いて評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。					

教 科	地理歴史		科 目	歴史総合	単位数	2
学 年	3 年		類 型	流通経済科、情報ビジネス科(A・B 類型) 地域ビジネス科		
教科書(出版社)		明解歴史総合 (帝国書院)				
副教材(出版社)		明解歴史総合ノート (帝国書院)				
授業の概要		近現代を中心に、特に世界史の動向と日本との関わりを重視した歴史学習を行う。多くの事象を理解するだけでなく、先人が残した資料を読み解きながら、現在の社会や文化に歴史的営みがいかに影響を及ぼしているか考察する。				
授業の目標		日本と世界の近現代史の基本的な事象を学び、多様な文化や価値観、様々な社会のあり方を理解するとともに、グローバル化する社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成に必要な公民としての資質・能力を育成する。				
年 間 学 習 計 画		学習内容 (単元・項目)		学 習 目 標		
	1 学 期	1部 歴史の扉 2部 近代化と私たち 1 近代化への問い 2 結び付く世界と日本の開国 3 国民国家と明治維新 4 近代化と現代の諸課題		・歴史における資料の重要性と適切な読み解き方について理解する。 ・18 世紀のアジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多角的・多面的に考察し、表現する。 ・欧米の市民革命や日本の明治維新や大日本帝国制定など国民国家が形成される過程を理解する。 ・列強の帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響を多角的・多面的に考察し、表現する。		
	2 学 期	3 部 国際秩序の変化や大衆と私たち 1 国際秩序の変化や大衆化への問い 2 第一次世界大戦と大衆社会 3 経済危機と第二次世界大戦 4 国際秩序の変化や大衆化と現代の諸課題		・国際秩序の変化や大衆社会に関する資料を分析し、資料を読み取った情報をまとめたりするなど表現する。 ・第一次世界大戦やソヴィエト連邦の成立など国際社会の変容を理解し、大衆の政治参加や大量消費社会成立の歴史的意義を、資料を通して考察する。 ・世界恐慌やファシズムの台頭が第二次世界大戦の展開にどのような影響を及ぼしたのか理解する。 ・第二次世界大戦後の国際社会の変化と日本の関わりを資料を通して考察し、表現する。		
	3 学 期	4 部 グローバル化と私たち 1 グローバル化への問い 2 冷戦と世界経済 3 世界秩序の変容と日本 4 現代的な諸課題の形成と展望		・グローバル化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。 ・冷戦後の国際社会の変容と諸問題について、資料をもとに考察し、今後の世界秩序のあり方を展望する。		
観 点 別 評 価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から理解する。 諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。		歴史の変化に関わる事象の意味、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題の解決に向けて構想したりすることができる。		知識及び技能、思考力、表現力を粘り強く身に付けようとしている。 歴史に関わる諸事象について、平和で民主的な社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に解決しようとしている。	
備 考	学期ごとに 3 つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・C の 3 段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに 100 点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科	公 民		科 目	政治・経済	単位数	3
学 年	3 年		類 型	地域ビジネス科		
教科書（出版社）		高等学校 政治・経済（第一学習社）				
副教材（出版社）						
授業の概要		教科書に沿って、本文の内容を理解し、議論する。概論だけでなく、諸課題へのアプローチを扱いながら現代社会の諸課題を深く学ぶ。				
授業の目標		社会のあり方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通じて、広い視野に立ち、社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	第1編 現代日本の政治・経済の諸課題 第1章 現代日本の政治と経済 第1節 日本国憲法と現代政治のあり方 第2節 望ましい政治のあり方と主権者としての政治参加のあり方 第3節 市場経済の機能と限界		・政治や政治権力の意味とその役割について理解する。 ・よりよい民主政治のあり方について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ・「日本国憲法と現代政治のあり方」や「望ましい政治のあり方と主権者としての政治参加のあり方」について、多面的・多角的に考察、構想し、表現するとともに、よりよい社会の実現を視野に、現代政治の諸課題を主体的に解決しようとする姿勢を身に付ける。 ・経済の役割と、市場経済における人々の選択について、理解する。		
	2 学 期	第4節 持続可能な財政および租税のあり方 第5節 金融を通じた経済活動の活性化 第6節 経済活動と福祉の向上 第2章 現代日本の諸課題の探究 選択1 地域社会の自立と政府 選択2 産業構造の変化と起業 選択3 防災と安全・安心な社会の実現		・財政の機能としくみについて理解している。 ・金融のはたらきと金融機関の役割について、理解する。 ・社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、他者と協働して持続可能な社会の形成が求められる現代日本社会の諸課題を探究する活動を通して、課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会のあり方についての自分の考えを説明、論述する。		
	3 学 期	第2編 グローバル化する国際社会の諸課題 第1章 現代の国際政治・経済 第2章 国際社会の諸課題の探究		・諸課題の探究にあたって、国際社会の動向に着目したり、諸外国における取り組みや、国際連合における持続可能な開発のための取り組みなどを参考にしたり、諸課題を主体的に解決し、合意形成や社会参画に向かおうとする姿勢を身に付ける。		
観 点 別 評 価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	社会のあり方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会のあり方に関わる情報を適切かつ効果的に調べることができる。		国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や実現可能性などを指標にして議論し、公正に判断することができる。		よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科		保健体育		科 目	体 育	単位数	3
学 年		3 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		現代高等保健体育 改訂版（大修館書店）					
副教材（出版社）		現代高等保健体育ノート 改訂版（大修館書店）					
授業の概要		心と体のバランスを整えながら、自分の体力や体調に合わせた授業への参加を実践できるようにする。自分や仲間の健康・安全を確保した活動の中で、それぞれの課題を見つけてその解決に取り組み、技能の習得段階に応じた内容の練習や試合を考えながら進めていく。また、公正や協力、責任などの態度の育成を目指し、生涯にわたってスポーツに親しむ態度を育成する。					
授業の目標		1 各種の運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わいながら、さまざまな技能が身に付けられるようにする。 2 運動における競争や協働の意味を正しく理解し、自己や仲間の課題を解決していくために必要な態度や能力を養う。 3 健康や安全を確保し、継続して運動に親しむことができるようにする。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）			学 習 目 標		
	1 学 期	1 体づくり運動 各種体操、集団行動、補強運動及び長距離走など 2 選択Ⅰ バドミントン、テニス、卓球及び柔道から1つ選択 3 体育理論Ⅰ			・自分の体力や体調に合わせた運動を継続して行う。 ・基本的な集団行動を学び、日常生活の中に役立てていく。 ・仲間と協力したウォーミングアップを通して、体や心の状態に気づく。 ・基本的な用具の操作やボール操作を身に付ける。 ・自分たちのレベルに合わせたルールを考えながら、仲間と協力して簡易ゲームで勝敗を競う。 ・技の名称や使い方を覚え、基本的な技を使った攻防をできるようにする。 ・健康・安全を確保して活動する。 ・豊かなスポーツライフの設計について学ぶ。		
	2 学 期	4 選択Ⅱ ソフトボール、バレーボール及びハンドボールから1つ選択 5 選択Ⅲ サッカー及びバスケットボールから1つ選択 6 体育理論Ⅱ			・基本的な用具の操作やボール操作を身に付ける。 ・自分たちのレベルに合わせたルールを考えながら、仲間と協力して簡易ゲームで勝敗を競う。 ・作戦や状況に応じた技能で仲間と連携してゲームを展開する。 ・健康・安全を確保して活動する。 ・豊かなスポーツライフの設計について学ぶ。		
	3 学 期	7 選択Ⅲの続き			・個人技能や集団的技能の程度に応じてゲームができるようにする。 ・各技能を発揮し、攻撃と防御を展開し、勝敗を争うことの中から作戦を立て、工夫をすることの楽しさや喜びを味わい、生涯スポーツに生かす。		
観 点 別 評 価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	運動の楽しさや喜びを深く味わうために自ら進んで運動しようとしている。 公正・協力・責任などの社会的態度が身に付いている。		自分や仲間の体力や学習段階に応じた課題を見つけ出している。 課題解決を目指し、工夫している。 自分やチームで考えたことを他者に伝えることができる。		体づくり運動の行い方や、さまざまな運動の技能、ゲームの進め方が身に付いている。 自分や仲間の健康・安全を守るための知識を理解し、実践している。		
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。						

教 科	外 国 語		科 目	英語コミュニケーションⅢ	単位数	4
学 年	3 年		類 型	地域ビジネス科		
教科書（出版社）		BIG DIPPER English CommunicationⅢ（数研出版）				
副教材（出版社）		UNITE 英語総合問題集 Stage 2（数研出版） UNITE 英語総合問題集 Stage 3（数研出版）				
授業の概要		1 予習では、単語やイディオムの意味を辞書で調べて、本文の内容を把握する。 2 予習で分からなかった箇所は、授業の説明を聞いて、ノートを整理する。 3 ペアワークやグループワークなどの言語活動を通して、英語を使う機会を増やす。				
授業の目標		1 積極的に英語に触れ、コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 2 英語を聞いたり読んだりして理解したことに加えて、本文内容に関する情報や自分の考えなどを整理して伝える力を養う。				
年 間 						

教 科	外 国 語		科 目	論理・表現Ⅱ	単位数	2
学 年	3 年		類 型	地域ビジネス科		
教科書（出版社）		MY WAY Logic and ExpressionⅡ（三省堂）				
副教材（出版社）		3 rd Edition 英文法・語法 Engage（いっずな書店） 3 rd Edition 英文法・語法 Engage 準拠 Basic Training Book（いっずな書店）				
授業の概要		1 予習や文法事項の学習、問題演習を通して、コミュニケーションに必要な文法・語法のルールに対する理解を深める。 2 ペアやグループワークなどを通して会話表現に親しむ。また、様々なテーマに対して自分の意見や考えを表現する。				
授業の目標		1 積極的に英語に触れ、コミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 2 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づいて、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える力を養う。				
年 間 <						

教 科		家 庭		科 目	生活産業基礎	単位数	2
学 年		3 年		類 型	地域ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		生活産業基礎（実教出版）					
副教材（出版社）							
授業の概要		「生活産業を学ぶにあたって」「ライフスタイルの変化と生活産業」「ライフスタイルの変化に対応した商品・サービスの提供」「生活産業と職業」「職業生活と自己実現」の5項目で構成しており、体験的な学習を通して専門的な学習への意欲を高め、勤労観、職業観を身に付ける。					
授業の目標		衣食住、ヒューマンサービスなどに関する生活産業や関連する職業を担う職業人として、必要な基礎的資質・能力を進んで習得し、活用する意欲と態度を身に付ける。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）			学 習 目 標		
	1 学 期	第1章 「生活産業」を学ぶ			・近年の社会の変化と産業構造の変化に伴って、働き方やライフスタイルが多様化していること、人々のニーズの変化を的確に捉えた商品・サービスが提供されていることを理解する。 ・消費者ニーズを把握するための調査方法や、結果の活用方法を知る。 ・商品やサービスの企画、開発から販売・提供の仕組みを知り、具体的に商品開発について考える。 ・外食・中食産業、食品流通業の意義と役割を理解する。 ・消費者のニーズや消費行動に対応した商品・メニュー開発、販売やサービスの方法に関心を持つ。 ・様々な資格や職業について興味・関心を持つ。		
		第2章 ライフスタイルの変化に対応した商品・サービスの提供					
		第3章 食生活関連分野					
	2 学 期	第4章 衣生活関連分野			・人々の意識の多様化により、ファッションが多様化していることを理解する。 ・様々な資格や職業について興味・関心を持つ。 ・住生活に関わる産業の意義と役割を理解し、人々がライフスタイルや価値観に合った住居を求めていることを具体的な事例を通して理解する。 ・様々な資格や職業について興味・関心を持つ。 ・ライフスタイルや価値観の多様化によってヒューマンサービス関連分野に対する需要が高まっている状況を認識し、意義と役割を理解する。 ・様々な資格や職業について興味・関心を持つ。		
第5章 住生活関連分野							
第6章 ヒューマンサービス関連分野							
3 学 期	第7章 なりたい自分になるために			・生活産業にかかわる職業人に求められる資質・能力について理解する。 ・生活産業のスペシャリストとして働くことが自己実現につながっていくことを理解する。			
観 点 別 評 価	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	生活産業の各分野について体系的・系統的に理解していると同時に、関連する技術を身に付けている。			生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。		よりよい社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。						

教 科	商 業		科 目	課題研究	単位数	4
学 年	3 年		類 型	地域ビジネス科		
教科書（出版社）		課題研究の手引き（松山商業高校）				
副教材（出版社）						
授業の概要		財務諸表に関する基礎的な知識と技術を習得する。また、利害関係者に会計情報を提供する能力と態度、及び、提供された会計情報を活用する能力と態度を育成する。				
授業の目標		1 財務諸表の作成に関する知識と技術を習得する。 2 財務会計の意義や制度について理解する。 3 会計情報を提供し、活用する能力と態度を身に付ける。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	第 1 編 企業会計の基礎		・資産、負債、純資産の種類と会計処理及び財務諸表の作成をとおして、企業の財政状態を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得する。 ・損益計算の意味と損益の区分、収益・費用の認識と測定及び損益計算書の作成をとおして、企業の経営成績を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得する。		
		第 2 編 資産				
		第 3 編 負債				
		第 4 編 損益計算				
		第 5 編 財務諸表の作成				
2 学 期	第 6 編 財務諸表の活用		・財務諸表分析の意義及び財務諸表の見方について学び、財務諸表を活用するための基礎的な知識と技術を習得する。 ・連結財務諸表の目的と連結の範囲及び連結財務諸表の基礎について学び、連結財務諸表に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・日商簿記検定の問題や全商会計実務検定の問題、大学入試センター試験の問題や大学入試の問題演習をとおして、知識の深化と技術の慣熟を図る。			
	発展学習					
3 学 期	発展学習		・日商簿記検定の問題や全商会計実務検定の問題をとおして、知識の深化と技術の慣熟を図る。 ・企業の経営者や社会人としての倫理観等を身に付ける。 ・課題研究報告書を作成し、発表する。			
観 点 別 評 価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	会計情報を利害関係者に提供する能力と態度及び提供された会計情報については、ビジネスの諸活動に適切に活用する能力と態度を身に付けている。		会計に関する法規や基準の変更に対応し、適切な財務諸表を作成したり、利害関係者にとって有用性の高い分析をしたりするなど、主体的な判断を基に正確な作業ができる。		財務会計に関する学習に興味・関心を持ち、授業や課題に対して意欲的に取り組むなど、知識の深化と技術の向上に努めている。	
備 考	学期ごとに 3 つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・C の 3 段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに 100 点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科	商 業		科 目	総合実践	単位数	2	
学 年	3 年		類 型	地域ビジネス科			
教科書（出版社）		総合実践 ―企業取引を学ぶ― 三訂版（実教出版）					
副教材（出版社）							
授業の概要		1 これまでに学習してきた各科目の内容が、実際のビジネス活動でどのように関連しているかを実践的に学習する。 2 ビジネス活動に必要な知識・技術について、模擬実践を通して、一連の業務の中で体験的・一体的に学習する。					
授業の目標		1 ビジネスに必要な基本的な知識・技術・態度を総合的に身に付け、それらを実際に活用できるようにする。 2 ビジネス社会の有機的な関連を実践的に理解し、その中で自分が担当する職務についての自覚を深める。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標			
	1 学 期	第1編 基礎編 第1章 総合実践の学習 第2章 ビジネスマナー 第3章 ビジネス文書の作成 第2編 実践編 第1章 模擬取引の学習 第2章 模擬取引 1 卸売商の業務		・学習の目標と心得、学習方法を理解する。 ・社会人に必要となる基本的なマナーや応対時のマナー、電話応対について理解し、技術を身に付ける。 ・ビジネス文書の役割と重要性を理解し、基本的な作成技術を身に付ける。 ・卸売商の開始業務、経営計画、仕入業務、販売業務、月末・期末業務等に必要な知識・技術・態度を実践的な演習をとおして学習する。			
		2 学 期	2 倉庫会社の業務 3 保険会社の業務 4 運送会社の業務 5 銀行の業務 6 管理部の業務		・各会社（倉庫・保険・運送・銀行・管理部等）の開始業務、日常業務、月末業務について理解し、実践的な演習をとおして技術を身に付ける。 ・期末業務等に必要な知識・技術・態度を実践的な演習をとおして学習する。		
	3 学 期		7 情報処理の業務		・総合実践におけるコンピュータの利用について、知識と技術を身に付ける。		
観 点 別 評 価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	記帳に必要な仕訳を理解し、諸帳簿・諸表の作成ができるか。 帳票作成に必要な個々の金額の計算方法を理解しているか。 取引に関する証票に基づく起票、帳簿記入ができるか。		会社の一員であるという意識を持ち、ビジネスマンとしてのマナー等に注意を払いながら行動することができるか。 取引の流れや諸帳簿の起票および会計処理を正しく理解しているか。		ビジネスの諸活動に関心を持ち、自ら考えて積極的に活動することができるか。 ビジネスに必要なマナーや知識を進んで習得しようとしているか。		
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。						

教 科		商 業		科 目	ビジネス・マネジメント	単位数	2
学 年		3 年		類 型	地域ビジネス科		
教科書（出版社）		ビジネス・マネジメント（実教出版）					
副教材（出版社）		ビジネス・マネジメント準拠問題集（実教出版）					
授 業 の 概 要		商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を身に付けることを目指します。					
授 業 の 目 標		1 商業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 2 ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を理解し、合理的・創造的に解決する力を養う。 3 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組み態度を養う。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）			学 習 目 標		
	1 学 期	第1章 ビジネスの創造 第2章 ビジネスの組織化			・ビジネスにおけるマネジメントの概要を理解する。 ・マネジメントについての意識と意欲を高め、組織の一員として他者と協働する力を身に付ける。 ・ビジネスの創造について理解する。 ・組織のマネジメントについて企業における事例と関連付けて理解する。 ・組織のマネジメントに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、組織の管理と活性化の方策を考案して実施し、評価・改善をおこなう。 ・組織のマネジメントについて自ら学び、組織の一員として組織の適切な管理と活性化について、他者と協働する力を身に付ける。		
	2 学 期	第3章 経営資源のマネジメント 第4章 ビジネスの変革 第5章 ビジネスと社会			・経営資源のマネジメントについて企業における事例と関連付けて理解する。 ・経営資源のマネジメントに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、経営資源の管理と活用の方策を考案して実施し、評価・改善をおこなう。 ・経営資源のマネジメントについて自ら学び、経営資源の適切な管理と効果的な活用について、他者と協働する力を身に付ける。 ・ビジネスの創造と展開について企業における事例と関連付けて理解し、課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、ビジネスの創造と展開に関する計画を立案して実施し、評価・改善をおこなう。 ・ビジネスの創造と展開について自ら学び、プロジェクトを適切に管理し、ビジネスの創造と展開について、他者と協働する力を身に付ける。 ・企業の秩序と責任について企業における事例と関連付けて理解する。		
	3 学 期	第5章 ビジネスと社会			・企業の秩序と責任に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、企業の秩序の維持と責任を果たす方策を考案して実施し、評価・改善をおこなう。 ・企業の秩序と責任について自ら学び、企業の秩序を維持し、責任を果たすことについて、他者と協働する力を身に付ける。		
	観 点 別 評 価	知識・技術			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
ビジネスにおけるマネジメントについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役立つマネジメントに関する知識を身に付けている。			ビジネスにおけるマネジメントをはじめとした様々な知識などを活用し、課題を発見し、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、経済社会の動向、マネジメントの理論、データ、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。		ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らマネジメントについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、経営資源のマネジメント、新たなビジネスの創造と展開などに責任をもって取り組もうとしている。		
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。						

教 科	商 業		科 目	財務会計 I	単位数	2
学 年	3 年		類 型	地域ビジネス科		
教科書（出版社）		新財務会計 I （実教出版）				
副教材（出版社）						
授業の概要		財務諸表に関する基礎的な知識と技術の習得をする。また、利害関係者に会計情報を提供する能力と態度、及び、提供された会計情報を活用する能力と態度を身に付ける。				
授業の目標		1 財務諸表の作成に関する知識と技術を習得する。 2 財務会計の意義や制度について理解する。 3 会計情報を提供し、活用する能力と態度を身に付ける。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	第 1 編 財務会計の基礎 第 2 編 貸借対照表		・資産、負債、純資産の種類と会計処理及び財務諸表の作成をとおして、企業の財政状態を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得する。		
		第 3 編 損益計算書		・損益計算の意味と損益の区分、収益・費用の認識と測定及び損益計算書の作成をとおして、企業の経営成績を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得する。		
	2 学 期	第 4 編 その他の会計処理		・役務収益・役務原価、外貨建て取引、税効果会計など会計に関する新しい知識を習得する。		
		第 5 編 財務諸表の作成 発展学習		・財務諸表分析の意義及び財務諸表の見方について学び、財務諸表を活用するための基礎的な知識と技術を習得する。 ・連結財務諸表の目的と連結の範囲及び連結財務諸表の基礎について学び、連結財務諸表に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・日商簿記検定の問題や全商会計実務検定の問題をとおして、知識の深化と技術の慣熟を図る。		
3 学 期	発展学習		・日商簿記検定の問題や全商会計実務検定の問題をとおして、知識の深化と技術の慣熟を図る。			
観 点 別 評 価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	財務会計に関する基礎的・基本的な知識と帳簿作成技術、各種の数値を算出する方法を身に付け、それらの知識を活用し、適正な会計帳簿を作成することができる		会計に関する法規や基準の変更に対応し、適切な財務諸表を作成したり、利害関係者にとって有用性の高い分析をしたりするなど、主体的な判断を基に正確な作業ができる。		財務会計に関する学習に興味・関心を持ち、授業や課題に対して意欲的に取り組むなど、知識の深化と技術の向上に努めている。	
備 考	学期ごとに 3 つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・C の 3 段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに 100 点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科		商 業		科 目	松山学Ⅲ	単位数	2
学 年		3 年		類 型	地域ビジネス科		
教科書（出版社）		学校設定科目「松山学Ⅲ」（松山商業高校）					
副教材（出版社）							
授業の概要		1 地域と連携した活動を通して、地域に対する誇りと愛情を醸成し、地域活性化に対する使命感を持つ。 2 学校の内外において、実践的・体験的な学習を行う。					
授業の目標		1 松山や愛媛の経済や観光、文化、歴史、産業などへの理解を深めさせるとともに、地域社会の現状や願いについて理解させ、地域の様々な課題について主体的に考察する。 2 観光産業や地場産業の振興などについて考えさせるとともに、地域活性化に寄与する具体的な実践活動を行わせることで、松山や愛媛の未来を担う人材として必要な能力と態度を育成する。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）			学 習 目 標		
	1 学 期	1 ガイダンス (1) 「松山学」について (2) 「1000 日実習」 2 地域活性化に寄与するイバンとの規格と開催 (1) 地域の現状とニーズの把握 (2) 企画の立案 (3) イベントの開催			・学習の目標と心得、学習方法を理解する。 ・企業の経営戦略や社会的責任、地域の現状や地域に対する経営者の思い等について理解し、地域への愛情と誇り所属意識を醸成する。 ・地域の現状とニーズに合致した地域活性化イベントを開催する。 ・イベント内容の決定、役割分担、予算案の作成、スケジュールの作成、協力依頼等外部との折衝、告知方法の検討、経費の管理、収支報告などについて、的確な実践に努める。 ・地域との積極的な協働を推進する。 ・一人一人が主体的、協力的に取り組む。		
	2 学 期	3 ポートフォリオの作成 4 研究紀要の作成			・自分自身の取組を客観的に振り返り、自己有用感や自己肯定感を醸成する。 ・自分自身がこれまでに獲得してきた知識や技術を整理する。 ・これまでの学習の成果を文書で著すことを通して、適切な表現の方法を身に付ける。		
	3 学 期	5 地域の諸課題 6 班別実習報告会 7 自己評価			・地域活性化等に関する取組事例から、地域の諸課題についての理解を深め、地域活性化へ向けた使命感を養う。 ・班別実習の成果を共有する。 ・一人一人が、自分だけの特別な経験を蓄積する。		
観 点 別 評 価	知識・技術			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	地域の現状や課題、地域に暮らす人々の願いについて理解しようとしている。 積極的な態度でワークショップや実習に参加している。			実践的、体験的な活動を通して獲得した知見をもとに、地域に活力や魅力を与えるためには何をしなければならないか、自らのアイデアを持っている。 自らの考えを他者に的確に伝えることができる。		地域の現状や課題、地域に暮らす人々の願いを理解し、地域に対する愛情と誇り、地域活性化を担う使命感を持つことができている。 地域の課題を解決する活動や地域貢献活動を推進し、地域に活力や魅力を創出できている。	
備 考	学期ごとに 3 つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・C の 3 段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに 100 点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。						